

2018 10.28

一目均衡

編集委員 西條 都夫

「この制度は本当に機能するのか」と思ったのは、2年前の2012年春のことだ。当時反原発派の旗頭で、再生エネルギーの推進者でもある飯田哲也氏に

「そいつらの普及が進むでしょう」と尋ねると、「太陽光なら1キロワット30円台後半で十分では」という答え。専門家の言もあり、決め、混乱が広がった。せ

ども、それは終わつたが、その数週間後、政府が決めようとしていた買取り価格が新聞に載つて驚いた。

太陽光の価格は1キロワット42円。再エネ導入に多大の情熱を燃やす飯田氏の推奨取材の機会があり、話題が12年7月から始まる再生エネルギーの固定価格買取り制度(FIT)に及んだ。

「買い取り価格をいくら

価格はだれが決めるべきか

の感覚は間違つてなかつた。電量が流れ動く太陽光がこれまでの規模で九電のグリッドに接続されれば、混乱は避けられない。「契約の中断やむなし」との声が大勢を占めるゆえんだ。

電気を一致させる最大の要因は、価格メカニズムであります。供給が増えすぎれば、財やサービスの値段が下がり、自然に供給が減つて需給が均衡する。

一本部の高橋英丈部長は、「米国を見習って、再生エネルギーの普及促進にも入札制度など市場原理を取り入れるべきだ」と指摘する。FITの買取り価格がなぜ高くなつてしまつたのか、それについての説明、弁明はいろいろあるが、今回の混乱を受け改めて明確になつたのは、「市場ではなく、政府が値段を決める」というのは失敗する」という

エネルギーの普及を促す方向に作用することになる。

エネルギーの普及を促す方向に作用することになる。